

日本神経内分泌学会 評議員会・総会 議事録

日 時：2011年11月25日（金）16:00～17:00

場 所：都道府県会館（東京都千代田区平河町2-6-3）1階101会議室

議 題：

1. 今後の学会運営体制について（定款・施行細則等の改定を含む）（審議事項）
2. 2010年度庶務報告の件（報告事項）
3. 2010年度決算報告、2011年度見込み、および2012年度予算の件（審議事項）
4. 2013年度会長の件（審議事項）
5. 名誉会員、功労評議員の件（審議事項）
6. 評議員再任、新評議員の件（審議事項）
7. 特別功労賞、川上賞、若手研究助成金の件（報告事項）
8. 若手研究奨励賞（YIA）の件（報告事項）
9. Newsletter 発行の件（報告事項）
10. 第39回学術集会の準備状況（報告事項）
11. その他
 - 次世代育成について
 - 理事選挙の件
 - 第40回学術集会について

評議員会・総会の開会にあたって、大磯理事長より出席者の確認があり、定款第20条及び第25条の定足数（評議員会68名、総会181名）を満たす出席者（評議員会71名、総会222名、委任状を含む）があるので、本評議員会・総会は成立する旨の報告があった。

引き続き定款23条により、加藤学術集会会長が議長に選出され、加藤会長の司会により議事が行われた。

1. 今後の学会運営体制について（定款・施行細則等の改定を含む）

（審議事項）

大磯理事長から 本学会をより機動力のある運営体制とするために、①筆頭理事会を定期的にかけており、すでに春（4月21日）と夏（8月13日）に開催した。そこでの討議から②「学術賞」担当理事を「次世代育成」担当理事に名称変更して若手に育成に力を入れる、ことが決まったとの説明があり、島津庶務担当筆頭理事より、これまでの「学術賞」担当理事から「次世代育成」担当理事への名称変更に伴う定款施行細則の改定（下記）につい

て提案があった。

また、定款の改正（評議員会と総会の合同開催）（下記）について提案があった。

いずれも全会一致で承認された。

定款施行細則の改正（承認、決定）

改定案（新）	現行（旧）
第3条 理事長は理事から庶務担当、会計担当、 <u>次世代育成担当</u> および企画・広報担当の理事それぞれ複数名を任命する。	第3条 理事長は理事から庶務担当、会計担当、 <u>学術賞選考担当</u> および企画・広報担当の理事それぞれ複数名を任命する。
第7条 <u>次世代育成担当理事</u> は次の事項を担当する。 (1) 学術賞の受賞候補者を選出し、理事会に答申する。 (2) <u>その他、次世代育成に関する事項</u>	第7条 <u>学術賞担当理事</u> は次の事項を担当する。 (1) 学術賞の受賞候補者を選出し、理事会に答申する。

定款の改正（承認、決定）

改定案（新）	現行（旧）
第4条 評議員会は年1回、学術集会の総会に先立って、理事長が召集する。 <u>但し、正当な理由がある場合は、総会と合同で開催できるものとする。</u>	第4条 評議員会は年1回、学術集会の総会に先立って、理事長が召集する。

2. 2010年度庶務報告の件

（報告事項）

島津庶務担当筆頭理事より、2010年度の庶務報告があり、2010年度の会員数については会費未納者の整理を行ったため若干落ち込んだ、との説明があった。一方、2010年度の新入会員は30人であった。また、第37回学術集会（京都）、評議員会・総会（同）、理事会（同）、会誌発行等の2010年度の事業報告が行われた。

3. 2010年度決算報告、2011年度見込み、および2012年度予算の件

（審議事項）

岩崎会計担当筆頭理事より、2010年度収支決算が報告された。収入の部では、未納者への会費請求の結果、見かけ上予算を上回る会費収入があり、今期の収入合計は予算を上回った。支出の部では、会誌発行回数が減ったこと、学術集会費の若手研究助成金について2件の予定が1件のみの助成になったこと、また学術集会費の印刷製本費は日本内分泌学会から援助が得られて減額となり、これらを併せて当初の支出予定528万円が333万円と大

きく減少し、大幅な黒字決算となった。繰越金は学会活性化のために有効に使うとともに、今後収入を増やす方策も考えていきたい、とのことであった。また、第37回学術集会（京都）の収支についても報告があった。

佐久間監事から、決算は適正に執行されていることを確認した、との報告があった。

特に質問はなく、この2010年度の決算は満場一致で承認された。

引き続き岩崎会計筆頭理事より、2011年度収支見込み2012年度予算について説明があった。収入の部の助成金については、2011年は200万円受けられるが、2012年・2013年は100万円となり終了するので、これに代わる財源を検討中とのことある。支出の部も従来と同様の予算とし、若手研究助成金は従来通り2名分の予算をとっている。

2011年度決算見込み及び2012年度予算も異議なく承認された。

4. 2013年度会長の件

（審議事項）

大磯理事長から、昨日の理事会で2013年度学術集会の会長に中里雅光教授（宮崎大学）を選出したと報告があり、満場一致で承認された。

5. 名誉会員、功労評議員の件

（審議事項）

島津庶務担当筆頭理事より名誉会員について、今年度は名誉会員の条件を満たす候補者がいないことが報告され了承された。

また、島津理事より、田辺清男評議員（東京電力病院）と本間研一評議員（北海道大学教授）の功労評議員への就任について説明があり、満場一致で承認された。

6. 評議員再任、新評議員推薦の件

（審議事項）

島津庶務担当筆頭理事より評議員の再任（再任評議員任期：2011年11月25日～2015年総会日）について説明があり、以下の21名の評議員の再任が満場一致で承認された。

赤水 尚史	今城 俊浩	小笹 宏	小澤 一史	小野 昌美
蔭山 和則	河田 光博	寒川 賢治	近藤 国和	篠田 晃
庄司 優	菅原 明	高屋 和彦	田中 一成	東條 克能
西 真弓	西岡 達矢	益崎 裕章	村上 治	村上 宜男
屋代 隆				

さらに島津理事より以下の 3 名の評議員就任について説明があり、満場一致で承認された。

氏名 (申請順)	所属	備考
やまぐち ひでき 山口 秀樹	宮崎大学医学部内科学講座 神経呼吸内分泌代謝分野	臨床
たかの じゅんこ 高野 順子	医薬品医療機器総合機構 新薬審査第2部 臨床医学担当	臨床
としない こうじ 十枝内 厚次	宮崎大学医学部内科学講座 神経呼吸内分泌代謝学分野	臨床

7. 特別功労賞、川上賞、若手研究助成金の件

(審議／報告事項)

加藤理事（第 38 回学術集会会長、特別功労賞選考委員長）より、特別功労賞選考委員会（持ち回り審議）の結果、出村 博名誉会員（東京女子医科大学名誉教授）を特別功労賞受賞者に選考したとの報告があり、満場一致で承認された。

また加藤理事（川上賞選考委員長）より、大塚文男会員（岡山大学）が川上賞受賞者として決定したとの報告があった。

さらに加藤理事（若手研究助成金選考委員長）より、松尾 崇会員（宮崎大学）の「下垂体ホルモン分泌調節と下垂体腫瘍の進展に寄与する成長因子 BMP の研究」に若手研究助成金を授与することに決定したとの報告があった。

8. 若手研究奨励賞（YIA）の件

(報告事項)

加藤理事（YIA 選考委員長）より、先ほどの選考委員会で山本雅昭会員（神戸大学）、森田晶子会員（京都工芸繊維大学）、大砂まるみ会員（明治大学）の 3 名に決定した、との報告があった。

9. Newsletter 発行の件

(報告事項)

上田企画広報担当筆頭理事から、本年 7 月に No. 13&14 合併号を発行したこと、次の No. 15 は、今回の第 38 回学術集会の報告を中心に、国際神経内分泌学会次期会長の Gareth Leng 博士からの寄稿を加えて、2012 年 2 月に発行の予定である、との報告があった。

また広報関係では、会員に本会の情報を伝えるため E メールを活用したいこと、J. Neuroendocrinol. に掲載されている Briefing 欄を日本語訳して HP などでも会員に見てもらえる

よう計画中、との追加があった。

10.第 39 回学術集会の準備状況

(報告事項)

上田理事(第 39 回学術集会会長)より、第 39 回学術集会の概要について説明があった。会期(会場)は 2012 年 9 月 28 日～29 日(北九州国際会議場)であるが、9 月 30 日には隣接した AIM ビルで国際神経ペプチド学会(日本支部)の国際シンポジウムが開催されることになった。それに伴い、29 日午後は国際神経ペプチド学会(日本支部)との共催で特別企画シンポジウムを行う予定である。神経内分泌学会からはアジアオセアニアの若手研究者をシンポジストとして推薦したい、とのことであった。

11.その他

● 次世代育成について

中里次世代育成担当筆頭理事より、①学術賞について、積極的に応募を増やし、受賞者の本学会でより貢献できる場を作りたい、②次世代の育成策として、特に若手・女性会員が活躍できるような機会を設けていきたい、③学術集会のより一層の充実化のためにプログラム委員会を設立することになった、との説明があった。プログラム委員会では、会長独自の企画を尊重しながら、(会長のみでは全体をカバーするのが難しい)神経内分泌学領域を広く見通した、研究内容・研究手法を学術集会プログラムに盛り込んでいきたい。また、多くの方が参加し通年的に行うような、教育的な場を設けることも考えたい。本日第 1 回のプログラム委員会を開催したが、来年、再来年の学術集会でその成果を示したいと思っている。会員の皆様のご支援・ご協力をお願いしたい、とのことであった。

● 理事選挙の件

島津庶務担当筆頭理事より、この冬に理事選挙が実施されること、実施方法はこれまで同じであること、とのお知らせがあった。

● 第 40 回(2013 年度)学術集会について

中里理事(第 40 回学術集会会長)より、ペプチド研究のメッカ、宮崎で開催される第 40 回学術集会では、学術的に満足してもらえるような、また次世代育成が形となって見えるような、国際化を目指した、学術集会とするため準備していきたい、との挨拶があった。

最後に、加藤会長より、挨拶があった。3 学会合同の開催であり、最後に開催する本学会では登録が減るのではないかと心配していたが、本日までに約 130 名の参加登録があった。また合同開催は参加者からも好評と聞いて、喜んでいる。最後の若手シンポジウムまで、学会を盛り立てほしい、とのことであった。

以上

(理事長、各筆頭理事 校閲済)